



言語にみるカテゴリー化

[キーワード: メタファー, カテゴリー, 感覚, 色彩]

准教授 山田仁子

<研究の概要>

認知言語学や語用論と呼ばれる言語学の立場からことばを研究している。対象言語は主に英語と日本語である。

私たち人間は、生まれ出た社会に生きてコミュニケーションをとる中で、知らないうちに無自覚なままに、一定の物の捉え方を覚え、無意識のうちに一定の価値観を築き上げていると考えられる。

こうした捉え方や価値観は、無意識であるがゆえに、客観的に知ることが難しい。しかし、無意識に築き上げた価値観は口から発することばの端々に漏れ出る。人が日常的に話すことばを観察することで、普段は意識することが難しい価値観を明らかにすることが可能となる。

例えば、「父親」や「母親」や「家族」を表すことばが用いられる文脈を、言語資料を収集して分析することで、英語圏や日本語圏の社会における、「家族」やその成員に対する認識のありかたが明らかになる。

無意識なままに築き保持している価値観を、ことばの分析により明らかにすることで、社会のあり方や人々の生き方を客観的に見直し、よりよい方向へと変えていく手がかりとすることが期待される。

<主要研究業績>

・山田仁子(2017)「灰色」にないGrayの要素-日本と英語の色彩語カテゴリーの比較-『ハイペリオン』 vol. 63 pp.1-10

・山田仁子(2014) Fatherカテゴリーの形成過程にみる英語圏における父親像, 『ハイペリオン』 vol. 60 pp.3-12

・山田仁子(2013)「家族」に関する日本語語彙のカテゴリー化, 『徳島大学総合科学部言語文化研究』 vol. 21 pp.81-106

・山田仁子(2012) カテゴリー化を促す2種のベクトル-Real Mother と True Mother-, 大橋浩編, 『ことばとところの探求』開拓社, pp. 334-346

・山田仁子(2009) カテゴリー分類が引き起こす認識の変化-英語の色彩語彙yellowの場合-, 『徳島大学総合科学部言語文化研究』 vol. 17 pp.75-82

・山田仁子(1993) 言語は感覚の内視鏡, 『ハイペリオン』, vol. 40 pp. 29-40

<地域(行政)、NPOや企業と連携・共同研究可能なテーマ>家族や性別や人種等についての無意識な思い込みをあらわにすることば

専門分野 : 英語学, 認知言語学

E-mail: hiyamada@tokushima-u.ac.jp

Tel : 088-656-7129

Fax : 088-656-7129

詳細情報 : <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/60688/profile-ja.html>